

ダンボールコンポスト・メイト懇話会 概要

1 日 時 令和元年11月7日(木) 14:00~15:30

2 場 所 函館市中央図書館2階中研修室

3 参集者

- (1) ダンボールコンポスト・メイト (6名)
- (2) 「アドバイザー」ダンボール箱を利用した生ごみ堆肥づくり講習会 講師
はこだて魚の会 代表 柿崎陽子
- (3) 函館市環境部環境推進課 3名

4 内容(要旨)

○ よかったこと

メイト) 本当にごみが減りました。今まで20ℓの袋を使っていましたが、10ℓの袋を使うようになりました。10ℓでも余るくらいです。

また、畑の堆肥になってすごく助かっています。野菜もよく採れるようになり、ジャムも作ったりしました。

メイト) ダンボールコンポストで作った堆肥は、さらさらの土になって使いやすいので、よいと思います。

メイト) いままでは、キャベツの芯や外側の傷んでいる部分などの生ごみを全部捨てていましたが、ダンボールコンポストを始めてからは、生ごみは堆肥づくりに利用したので、ごみが減っていることを実感しました。

メイト) 1週間に2回、燃やせるごみの日がありますが、1週間1回に減らせることができました。リサイクルという意識を持ち、楽しみながら堆肥づくりをできたことがよいところです。

講師) 堆肥づくりをすると、燃やせるごみ袋に入れる生ごみの量が少なくなって、ごみを出す回数が減り、目に見えてごみが減っていることが分かりますよね。

メイト) キャベツの葉っぱや芯などを料理せずにそのまま捨てていたので、食材を無駄にしていたことを実感しました。食材を刻み、ハンバーグの具材にしたりすると生ごみを減らせるので、料理をする上でいろいろ反省する点があることも分かり、取り組んでよかったと思いました。

メイト) 自分で作った堆肥を使うことにより、菊の花がとても鮮やかに咲きました。野菜などを細かく刻んだものをダンボール箱に投入してかき混ぜると、こんなにもよい堆肥ができることに驚きました。よいことは継続していこうと思いました。

○ 困ったこと

メイト) 家を2日間留守にさせていただいて、堆肥が乾燥してしまいました。

かき混ぜないといけないと思い、家も空けられないです。

講 師) 家に帰ったときには、堆肥は乾燥していると思うのですが、水をかけてかき混ぜてあげればよいです。家を空けても大丈夫ですよ。毎日続けていると、堆肥をかき混ぜることが体で覚えているので、少しでも時間が空いてしまうと違和感がありますよね。

メイト) 最初は温度が上がりませんでした。

温度が下がった場合、すぐに上げるにはどのようにすればよいのでしょうか。

また、初めてなので、何がよくて何が悪いかわかりませんでした。

講 師) 最初は見極めが難しいですよ。すぐに温度を上げる場合には、油かすを投入してあげるとよいと思います。

ただし、温度が上がらなくても分解はしているので、無理に上げる必要はないですよ。取り組んでいくうちに、生ごみの種類や量をどのようにして投入すればよいか、分かってくると思います。

メイト) 毎日コーヒーを飲むので、コーヒーかすをよく投入していました。乾かないうちに入れていたことが原因なのか、水分が多く、カビの発生が気になってしまいました。そのため、しばらくの間はコーヒーかすではなく、野菜くずを投入していました。

講 師) コーヒーかすについては、そのまま容器に入れておいて、冷蔵庫の上の方に置くとよいですよ。そうすることで、冷蔵庫内の脱臭ができ、同時に乾かすこともできます。臭いを吸収するので、炭と同じ効果がありますね。トイレや玄関に置くのもよいと思います。その後、乾いてきたら投入するとよいですね。

メイト) 水分が多く、かき混ぜるとダンボールが剥がれてしまうことがありました。その場合はダンボール箱を2重、3重に厚めにして補強するのがよいと、講習会のときに伺ったのですが、結局、そのまま1枚の厚さで少しずつ補強しながら使っていました。ダンボール箱を厚くした場合、通気性は悪くなったりしないのでしょうか。

講 師) 通気性は悪くならないので、厚めにしても大丈夫です。

補強する場合は、底と四隅をしっかりと厚めにするのがよいです。

もし、新しいダンボール箱に中身の堆肥を入れ替えるのであれば、今まで使っていたダンボール箱は乾燥させて、再利用しても構いません。

また、かき混ぜる場合は、乾燥している四隅からかき始めるとよいです。

メイト) 大量に堆肥を作ろうと思い、みかん箱ではなく、サイズが大きいバナナ箱で堆肥づくりを試みましたが、使っていると中心部に穴が空いてしまいました。

講師) 中心部は特に穴が空きやすいので、2重、3重に厚めにして補強してあげてくださいね。サイズが大きいため、負担が掛かってしまったのかもしれませんが。

メイト) みかん箱が見つからなかったのが代用品として、焼酎の4ℓ、5ℓの深さのある箱を利用していました。2重構造になっているので、これは使えると思いました。しかし、深さがあるため、かき混ぜるときに手抜き部分が出てきてしまいました。

講師) 高さのあるダンボール箱だと、かき混ぜづらいですね。そのため、私はみかん箱くらいのサイズを推奨しています。みかん箱がない場合は、同じくらいのダンボール箱を使用し、2重、3重にするとよいです。

また、底の方までかき混ぜるのに浅い箱の方が使いやすいです。家庭で作る堆肥なので、そんなに大きい箱でなくても大丈夫だと思います。通気性をよくするためにも、ダンボール箱の持つところの穴を^{ふさ}塞がないことが大事です。

講師) 今回のメイトさんのお話を伺いますと、困ったことがあっても、皆様工夫されていて、堆肥づくりを本当に楽しみながら取り組まれているので、とてもうれしいですね。楽しみながらでないと続かないですね。

○ 工夫したこと

メイト) 毎日投入しないといけないと思い、何もなければ雑草を入れていました。雑草は入れてもよいのでしょうか。

講師) 雑草はほどほどに投入する分には問題ありません。もし、投入するものがない場合は、よくかき混ぜておくことが大事です。水分が少なければ、お米のとぎ汁などを足してあげるとよいですね。

夏の時期に出る生ごみには、「枝豆の皮」や「トウモロコシの芯」がありますが、枝豆は皮をそのまま投入し、トウモロコシは芯を細かく刻んで投入します。茹でたその日の新鮮なうちに投入するのがよいです。時間は掛かりますが、分解はしますよ。

また、基本的に、ダンボール箱には食べられるものを入れないです。「大根の葉」や「ニンジンの皮」もきれいに洗えば、そのまま料理することができますので、私は食べられるところは全て食べるように心掛けています。

ダンボール箱に投入するのは料理して最後に残ったものだけを入れます。そうすると本当にごみは少なくて済みますよ。

メイト) 水分が多いと、温度が下がってしまうことがありましたので、その場合は、油料理の「残り油」を投入してみると温度が上がりました。どうしても油料理の後は「残り油」が出てきてしまうので、台所（下水）に捨てないで、ダンボール箱に投入しています。

講師) 新しい油は1回使っても、そんなに酸化はしていません。

1回使った油は、濾すことで3回は使えますよ。油の色を見てどの程度まで料理に使えるかを判断します。あまり濃くない色であれば、野菜炒めに使うのもよいですね。ダンボール箱には油料理をしたときに出る、鍋の底に残った「黒っぽい油」、その鍋の油をふき取った「布」を投入します。

その後、温度が上がり、分解がある程度進んだ状態が見られたら、布を取り出します。布は堆肥化できないので燃やせるごみに捨てます。この方法をする、油料理の後は、下水に油を流すようなことはなくなり、水の汚染を防ぎます。結果的に、環境によいことにつながりますよね。

○ その他

メイト) 分解しているときは温度が上がりますが、通常の温度はどのくらいあればよいのでしょうか。

講師) 温度というのは、そのときに投入した生ごみの種類や量によって変わりますので、一定ではないです。15℃以上が望ましいと考えられます。

また、日々のデータを管理することで、温度の変化が分かります。方法としては、カレンダーに、朝昼晩に投入した「生ごみ」と「温度」を記録します。そうすると、温度が上がりやすい生ごみの傾向や、どのくらいごみを減らせることができたか、一目で分かります。投入する量によっては堆肥が完成できる日は違ってきますので、3ヶ月でできるというのは、あくまで目安としてください。

メイト) 参考資料1の成功のポイントに、「水分状態を50%位に！」とありますが、どのくらいの状態なのでしょう。

講師) 握りしめたときに「ふわっ」と割れるくらいの硬さが50%です。

また、強く握りしめたときには、手に水気を感じます。もし、水分が足りないようであれば、少しずつ様子を見ながら、お米のとぎ汁などを四隅に投入し、かき混ぜてあげます。

メイト) 参考資料2の「土を混ぜてさらに1～2ヶ月」とありますが、どのような土をどのくらい投入すればよいのでしょうか。

講師) 庭にある土を投入するとよいです。新しい土を買ってきてまで入れる必要はないですよ。土の量は、でき上がった堆肥の半分くらいを入れるとよいです。

メイト) 土を半分投入するときに、鉢植え後の土を入れても大丈夫でしょうか。

講師) 土が塊になっている場合がありますので、ふるいにかけてから入れてあげてください。投入した後は、かき混ぜることを忘れないようにしてくださいね。

メイト) 臭いのあるときには、どのようにしたらよいでしょうか。

講師) 臭いが発生した場合は、脱臭効果のある「もみ殻くん炭」を投入します。補足ですが、ダンボール箱の底をよく見てみると、白くなっていることがあります。これは、もみ殻くん炭が焼けてしまった証拠です。

また、「ピートモス」は保水性があります。

様子を見ながら「もみ殻くん炭」と「ピートモス」も少しずつ投入してあげるとよいでしょう。どのような状態になるか、実験しながら投入するのも一つの楽しみになりますね。

メイト) みかん箱を探すのに苦労しました。何かよい方法はありますか。

講師) これからの時期、みかんが出回る頃なのでスーパーに置いてあると思います。みかん箱がない場合は、同じくらいのダンボール箱を使用し、2重、3重するとよいです。

また、底の方までかき混ぜるのに浅い箱の方が使いやすいです。